

令和3年度経営学科ゼミ選定資料(ゼミの概要について)

研究室名	イノベーション研究室	担当教員	宮脇靖典
------	------------	------	------

担当教員の専門分野

前職の広告会社時代を含め、もともとの専門分野はマーケティング。
当研究室では、商品、事業から組織、地域まで広義のイノベーションをテーマとし、一見関係のなさそうな既存の資源が結びついて新たな価値が生まれている事例の研究に力を入れています。
注目しているのは、第三者の新たな見方が地域資源の潜在価値を開花させる地域のイノベーション。

ゼミの概要について

本年度のゼミ活動は、岡山情報文化研究所(ビザビグループ)の協力を得て「住み続けたいと思える岡山市の未来創造拠点をつくる」を共通テーマとするイノベーション・ラボと連動して進めていきます。
みなさんが主役となる岡山市の未来像を描くのは、みなさん自身にほかなりません。
その実現をめざす持続的な拠点づくりの企画・準備を進めることが、当研究室の構想です。
本ゼミでは、そのために必要となるデザイン思考およびその基礎となる知的生産性向上の手法を学ぶとともに、参考となるまちづくりの事例を中心に研究を進めていきます。

ゼミの担当教員がゼミに来てほしい学生に期待すること

- ・本ゼミにおける連携先はじめ学外の協力先の方々には、敬意と感謝をもって接すること。
- ・“One for all. All for one.”の意味をよく理解して、ゼミ活動に取り組むこと。
- ・やむを得ない場合(部活やバイトはこれに含まれない)を除き、本ゼミの予定を優先すること。
- ・本ゼミは共通テーマのイノベーション・ラボと連動して進められるので、特に春学期(夏休みを含む)はラボ生(3年次生)と協働すること。
- ・当研究室の構想が複数年にわたるので、卒業研究の準備・提出にとどまらず、次年度以降に続く後輩に課題を引き継いでいくことを意識し、できれば卒業後も何らかのかたちでかかわってくれること。

今までのゼミ活動の紹介

前年度のゼミ活動は、全く別のテーマで地元企業(岡山県・香川県)の取材を軸に進めました。
ゼミ生と一緒に訪問したのは、アクリル素材加工技術を生かして巨大水槽の世界的トップシェアを誇るメーカーの創業者社長、板金加工業からその技術を生かしてユニークな小屋事業を展開するメーカーの社長、カーディーラーのトップセールスマンです。
また、ゼミ生の卒業研究のキーワードは、「セレンディピティ」、「センスメイキング」、「エフェクチュエーション」、「サーバント・リーダーシップ」、「(ファッションの)ブランディング」でした。

その他希望する学生に伝えておきたいこと

- ・通常の授業と異なり、実施時間の変更および4単位に求められる以上の時間的負担を伴うこと。
- ・フィールドワークの実施等により、金銭的な自己負担が発生する可能性があること。
- ・本ゼミを選択肢の一つとして考える場合は、後々の誤解がないように、必ず当研究室を訪問しておくこと。

ゼミ選択のために担当教員の研究室を訪問する際の注意事項について

訪問は、計画的に、節度を保って。
質問は、具体的に、前もって整理して。